

10月29日(月曜日)  
ドル/円・豪ドル/円  
ユーロ/円・ポンド/円

## ドル/円、改めてサポートラインに注目

### 26日(金)の為替相場



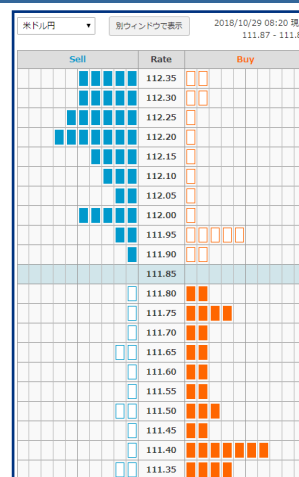
期間 26日(金)午前6時10分~27日(土)午前5時55分 ※チャートは30分足(日本時間表示) 出所:外為どっとコム

- ① 米国株の取引終了後に発表されたアマゾンやアルファベット(グーグル)の決算が冴えなかったとの見方から、時間外取引の米国株先物が下落。日本株を始めアジア株も不安定な値動きとなる中、円高が進行。人民元安も同時進行したため豪ドル売りが強まり、豪ドル/円の下落が最も大きくなった。
- ② 米7-9月期国内総生産(GDP)は前期比年率+3.5%と予想(+3.3%)を上回る伸びとなった。GDPの7割を占める個人消費が+4.0%(予想:+3.3%)伸びて全体をけん引した。一方、輸出や住宅投資が減少したほか、企業の設備投資は小幅な伸びにとどまった。発表直後はドルが買われたが、内容的に見た目ほど強くないとの見方に傾き、次第にドル売りへと転換した。
- ③ NYダウ平均の下げ幅が500ドルを超えて、一時24400ドル台に下落。株安を背景に米10年債利回りは3.05%前後まで低下した。これを受けて円買い・ドル売りの動きが強まると、ドル/円は111.30円台まで下落して約1カ月半ぶりの安値を付けた。しかし、その後は米国株に安値拾いの買いが入り、下げ幅を縮小する中、クロス円を買い戻す動きが強まったため、ドル/円も一時112円台を回復した。
- ④ 浅川財務官が、株式市場のボラティリティの高まり受け、財務省、金融庁、日銀が緊急に三者会合を開催した事を明らかにした。なお、「市場の動きを緊張感を持ち注視すること確認」「世界や日本の実体経済の基調は非常に堅調」「為替への波及も含めて現状の金融市場全体を分析」などと述べた。

26日(金)の株・債券・商品市場

日経平均	豪ASX	上海総合	英FT	独DAX
21184.6 ▼84.13	5665.159 △1.093	2598.847 ▼4.953	6939.56 ▼64.54	11200.62 ▼106.50
NYダウ	日10年債	豪10年債	英10年債	独10年債
24688.31 ▼296.24	0.1130% ▼0.0040	2.596% ▼0.015	1.383% ▼0.058	0.352% ▼0.046
米2年債	米10年債	NY原油	NY金	
2.8062% ▼0.0404	3.0755% ▼0.0412	67.59 △0.26	1235.80 △3.40	

外為注文情報(ドル/円)



本日の見通し

予想レンジ	ドル/円	ユーロ/円	豪ドル/円	ポンド/円
	111.300-112.400	126.900-128.200	78.900-79.900	142.800-144.300

【ドル/円】

26日のドル/円は世界的に株価が下落する中、約1カ月半ぶりに111.30円台まで下落。この過程で、サポートラインと見られていた日足一目均衡表の雲や100日移動平均線を下抜けた。ただ、売り一巡後は急速に112円台へと反発するなど、NY市場中盤以降はショートカバーの動きが強まった。その結果、サポートラインの下抜けは、日足(ロウソク足)に生えた「下ヒゲ」によるものとなり、今後の動きにどう影響するのか判断に迷うチャートフェースとなっている。本日は改めて111.50円前後のサポートを巡る攻防に注目したい。なお本稿執筆時点では、一目均衡表の雲上限が111.66円前後、下限は111.47円前後、100日移動平均線が111.59円前後に位置している。

執筆者: 神田

本日の注目イベント

※注目度が高い順に「◎」「○」「無印」で表示 日本時間での表示

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表	市場予想
10/29(月)	18:30		(英)9月消費者信用残高	+11億GBP	+12億GBP
	21:30	○	(米)9月個人消費支出(PCE)(前月比)	+0.3%	+0.4%
	21:30		(米)9月個人所得(前月比)	+0.3%	+0.4%
	21:30	○	(米)9月PCEデフレーター・コア(前月比)	±0.0%	+0.1%
	21:30	○	(米)9月PCEデフレーター・コア(前年比)	+2.0%	+2.0%
	22:45		(米)エバンズ・シカゴ連銀総裁、講演	—	—

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。また、予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。